



# ももたろうくん

## ももたろう通信



発行日：2020年11月16日  
発行：社会福祉法人つどいの家 グループホーム  
発行責任者：飯田克也（グループホーム管理者）  
住所：〒984-0823  
仙台市若林区遠見塚2-16-15（ピポット若林）  
連絡先：022-282-4671

※ももたろう通信の由来：仲間と助け合い、共に作る広報誌

私達は仲間と協力して生活しています

先日あるグループホームを訪れた時のことです。入居者Aさんが私を呼び止め、メモ書きを始めました。そこには「ころなのこと（中略）...にほんがくぎゅつかいぎ、はやくしてほしい...〇〇だひょうA（Aさんの氏名）」が書かれており、「郡さん（仙台市長）に渡してほしい」とおっしゃっていました。これらは毎日テレビ等で話題となっている出来事です。早く何とかしてほしいという入居者Aさんの気持ちのあらわれを強く感じました。コロナ禍のなか手洗い、マスク着用、換気等の感染防止対策をする日々が続いていることと思います。この状況がいつまで続くのか誰にも分かりません。いまわたしたちができることは、入居者ひとりひとりに合わせた支援を考え（感染予防、状況の説明、対応等々）、取り組んでいくことではないかと思えます。

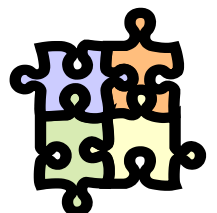
過日当法人では、グループホームにおいて必要となる感染症予防策等について県看護協会の新型コロナウイルス感染症防止対策相談窓口を通じて講師の方を派遣していただき、グループホーム職員を対象に新型コロナウイルス感染症防止に関する研修会を開催しました（詳細については本号3頁参照）。今後も『うつらないために、うつさないために』職員全体で感染予防策に取り組んでいきたいと思えます。

仙台市内のグループホーム事業者で組織する仙台市グループホーム連絡会では、県外の障害者支援施設や仙台市内の介護施設で集団感染が発生した事例もあり、今後グループホームでの新型コロナウイルスの感染を危惧し、下記についての要望書を仙台市と宮城県に提出していますので、紹介させていただきます。

- グループホームで新型コロナウイルスの感染者が発生した場合、仙台市（宮城県）と連携した人員の確保、医師、看護師等の派遣及び障害者福祉施設等との調整
- 障害特性上、移動が困難な方や病院等の建物内に入ることが難しい方に対してグループホームでPCR検査が受けることができるような体制の整備
- グループホームで新型コロナウイルスの感染者が発生した場合の対応に関する事前の事業者向け対策説明の実施

今後も拡がりが見られる新型コロナウイルスですが、少しでも今までの生活に戻ることができるよう感染予防に努めながら進めていきたいと思えます。

（グループホーム管理者 飯田）



# グループホーム紹介～さくらはうす編～



今回はさくらはうす最年長のKさんです。

Kさんは仙台つどいの家が南光台にあった時…  
…いやその前から『つどい』にいる大先輩です。

コーヒーが大好きなKさん。昨年度はよく近所のカフェに行きゆっくりコーヒーを味わうのが楽しみの一つでした。顔なじみの店も増えたのですが今年度はコロナウイルス感染拡大防止のため外出は極力控えることになり、さくらはうすでのコーヒータイムがふえてしまいました。

今年60歳になるKさんですが、去る9月30日に仙台つどいの家で還暦祝いが催されました。当日Kさんは赤いちゃんちゃんこ、職員はお揃いの赤のTシャツを着用しました。以前在籍していた職員さんのお祝いコメントの動画を見たり、各グループからのプレゼントを頂いたり、鏡割りのイベントがあったりと盛り沢山の内容でした。たくさんの方の皆様が集まり和気あいあい、あたたかくて楽しい時間でした。

秋も深まり日に日に寒くなってきますが、「またカフェに行きましょうね」と話しかけると『あい、そだね』とやさしく答えてくれました。さくらはうすではいつもお気に入りのソファに座り、みんなの様子を眺めてニコニコしているKさんです。皆さんもそんなKさんに会いにさくらはうすに遊びに来てください。

(記：佐々木忠)



# 新型コロナウイルス対策～ホームでの取り組み



## ①ひこうき雲での取り組み

グループホームでは新型コロナウイルス感染対策として食事の際にアクリル板の設置とフェイスガードの着用を始めました。飛沫防止に必要なことですが、光が反射して入居者の食べている様子が見えにくかったり声がかもり入居者に声が届かなかったりと今までとの違いに不便さを感じることもあります。また、マスクは花粉症やインフルエンザ予防で慣れています、フェイスガードを着けることにはなかなか慣れず、世話人同士で声かけしながら少しずつ習慣になってきています。



入居者の中には「何着けてるの?」「なにこれ?」と始めのうちは不思議に思う人もいましたが、今では食事が終わるとアクリル板の片付けを手伝ってくれることもあります。

感染対策とはこれからも長い付き合いになりそうなので、手洗い・うがいに努めながら入居者のみなさんと食事を楽しんでいきたいと思っています。

(記：坂本裕美)

## ②全体での取り組み～感染症防止に関する内部研修



防護服の着脱もレクチャーしていただきました。

10月13日に感染管理認定看護師、宮城大学特任講師である松永早苗氏を講師に迎え、グループホーム職員全体の研修会を実施しました。

新型コロナウイルスへの対策を中心に感染症への対策について、具体的かつ非常にわかりやすい言葉で説明していただきました。日頃テレビやネットなど様々な媒体からの情報があふれていますが、効果的な予防策さらには実際にホームで実践できる対策を学ぶことができ、すぐにでも取り組んでいきたいと感じました。

一部ですが、研修を受けた職員の感想を掲載します。

○とにかく手洗いの大切さを学んだ。

○先生からの話に何度もでてきた「無駄なことはしない」という言葉が印象に残った。対策だからとあれもこれもやってしまうと結局はやらないことになってしまうので必要なことを実践したい。

○入居者は自己防衛が難しい方が多いので生活環境を気をつけていきたい。



受講前の検温、手指消毒、窓を開けた換気といった感染対策を実施しました。

(記：佐藤靖志)

# 入居者懇談会より



今年度も月に一度、5つのホームの入居者で集まり懇談会を実施しています。その中から一部内容をご紹介します。

## その①5月21日開催

ワークショップ『グループホームでいきいきと』から質問し、青い紙はYES、赤い紙はNOの意思表示として挙げてもらいました。日頃感じていることをみなさん伝えてくれました。

主な質問項目

「これからも同じグループホームで暮らしたいと思いませんか？」

「自分の部屋を自分で整理整頓していますか？」

「あなたの部屋に勝手に入る人はいませんか？」

## その②8月18日開催

7月の懇談会で「ビーズアクセサリ作りをした！」という声がありましたので、アクセサリ作りを行ないました。

小さなゴムを専用の器具を使って編み込んでいき、ブレスレッドを作りました。細かな作業で難しい作業でしたが、世話人と協力しながら思い思いのブレスレッドを作っていました。

(記：佐藤靖志)



### 【編集後記】

朝晩の冷え込みが大きくなってきました。買い物中にふと空を見上げてみたら、夕焼け空一面にうろこ雲が浮かんでおり、キンモクセイの香りも相まって思わず「綺麗だなあ」と見とれてしまいました。日本の四季って美しいな…と(笑)コロナ禍でまだまだ遠出が難しく、「ステイホーム」のご時世ですが、季節の移ろいを忘れちゃいけないと思う今日この頃です。時々、ボーッと空を眺めるのも良いかもしれませんね (\*^\*)

(記：伊達直美)

